

認知症 患者の立場でケア

認知症患者が主体的に活動するデイサービスに取り組む藤本クリニック(守山市)の実践をまとめた「認知症ケアこれならできる50のヒント」(クリエイツかもがわ)と「もの忘れカフェの作り方」

藤本クリニック
実践を本で紹介

(徳間書店)の2冊が出版された。

いずれも同クリニックデイサービスセンター所長の看護師奥村典子さんと、認知症専門医藤本直規さんの共著。

「認知症ケア」では、「三大介護」と呼ばれる食事と排

せつ、入浴の具体的な状況を介した。

想定。コップの水を混ぜる音で飲み物だと知らせたり、張地相談にも携わる奥村さんは紙でトイレに誘導するなど「三大介護の悩みが本当に多い。症状や生活環境は人それぞれ、ケアに正解はない。それでも前向きに取り組むヒントが見つかるはず」と話す。

もう一冊では、軽度の患者向けに9年前に始めた「もの忘れカフェ」が、参加者の症状の進行に伴い発展していく過程を、介護スタッフの目線で紹介する。患者同士で活動内容を決めるという前例の少ない手法。患者が訴える心情に向き合うスタ

「認知症ケア これならできる50のヒント」(右)と「もの忘れカフェの作り方」



ッフの不安や葛藤もつづる。

「スタッフの自負や、医療と介護の密な連携によって、症状に配慮しつつ、患者本人が真に望むケアは可能だと伝えたい」という藤本さん。現在、全国各地で設立が相次ぐ、軽度認知症患者や家族、住民が交流する「認知症カフェ」運営の一助にも、と期待する。ともに2100円。

(芦田恭彦)